

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 2-7-5(砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 楢崎晃久

● 目 次

平成26年 中部地方治水大会	2
第54回 東北地方治水大会	6

平成 26 年 中部地方治水大会

と き：平成 26 年 11 月 4 日 (火)
と ころ：アクトシティ浜松

平成 26 年度中部地方治水大会次第

(敬称略)

第 1 部 記念講演

「浜名湖の歴史と文化」 歴史研究家 神谷 昌志

第 2 部 治水大会

開会宣言 静岡県交通基盤部理事 村松 篤

主催者挨拶 静岡県交通基盤部長 野知 泰裕

全国治水期成同盟会連合会長 陣内 孝雄

静岡県河川協会会長 田辺 信宏 (静岡県静岡市長)

来賓祝辞 中部地方整備局長 八楸 隆

静岡県議会建設委員長 仁科 喜世志

来賓紹介・祝電披露

大会座長推挙

事業説明

国土交通省・水管理国土保全局治水課堤防構造分析官 梅田 和男

国土交通省中部地方整備局河川部長 勢田 昌功

意見発表

静岡県伊豆の国市長 小野 登志子

静岡市川合旭町自治会長 浪越 良治

大会決議

静岡県河川協会副会長 鈴木 康友 (静岡県浜松市長)

次期開催県挨拶

三重県県土整備部河川課長 岡田 規生

閉会宣言

静岡県交通基盤部理事 村松 篤

第 1 部 記念講演

「浜名湖の歴史と文化」



歴史研究家
神谷 昌志

第 2 部 治水大会

■ 主催者挨拶



静岡県交通基盤部長
野知 泰裕

ただいまご紹介いただきました、静岡県交通基盤部長の野知でございます。本日、皆様には、ようこそ静岡県浜松市のほうにお越しいただきました。きょうは天気にも恵まれまして、雪をかぶった富士山が皆さんをお迎えしていることかと思えます。

本来ですと、川勝知事が出席して、親しく皆様にご挨拶申し上げるところでございますが、あいにく所用のためかありません。知事から祝辞を預かってまいり

ましたので、代読させていただきます。

初めに、平成 26 年度中部地方治水大会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本年 9 月の御嶽山噴火により、登山客を初めとする多くの方が被害に遭われるとともに、地域の社会経済活動にも多大な被害が生じました。犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に対して衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、本日は、中部各県の治水事業に携わっておられる方々をお迎えいたしまして、平成 26 年度中部地方治水大会を、このように盛大に開催できますことを厚く御礼申し上げますとともに、ご出席いただきました皆様を心から歓迎いたします。また、本日ご多用の中、国会議員並びに県議会議員の皆様方を初め、多くのご来賓の皆様のご出席をいただき、厚く御礼申し上げます。

ご承知のように、毎年全国各地で洪水や地震による災害が発生しております。近年では、地球温暖化等による台風の大型化や局地的な集中豪雨が各地で頻発するなど災害が激化する傾向もあり、多くの尊い生命や財産が失われております。

本県は、昨年、世界文化遺産に登録された富士山や、本年 6 月にユネスコエコパークに登録された南アルプスなど、標高が高く急峻な山々を背負い、年間降雨量は約 2,500mm と全国平均を大きく上回っているほか、一部に脆弱な地質が存するなどの地形的特徴を有しており、これまでたびたび大きな災害に見舞われてきました。

先月の台風 18 号では、近年経験したことのない豪雨により、県内各地の河川におきまして氾濫危険水位や避難判断水位を超え、静岡市では広い範囲で浸水被害が生じました。また、JR 東海道本線由比 - 興津間の線路脇斜面が崩壊し本線が不通となるほか、並行する国道 1 号が対面通行となるなど、県内外の社会経済に大きな影響を与えました。

ここ浜松市におきましては、昨年 4 月に、天竜区春野町の茶畑において大規模な地すべりが発生し、近くを流れる河川の埋塞により、付近住民が避難を余儀なくされたことは記憶に新しいところであります。

このような災害から県民の生命や財産を守り、安心安全な社会を築くため、本県では「富国・有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」をスローガンに各種施策を推進しており、「命を守る危機管理」を第 1 の柱に掲げて、災害に強い基盤づくりに取り組んでいるところであります。

本大会を契機といたしまして、中部地方全体の治水事業が一層促進されますことを大いに期待いたしますとともに、皆様にも一層のご協力をお願いいたしま

す。

結びに、ご来賓を初め、本日お集まりいただきました皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。



全国治水期成同盟会
連合会長
陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。



静岡県河川協会会長
(静岡市長)
田辺 信宏

皆さんこんにちは。今年度、河川協会会長を務めております静岡市長の田辺と申します。主催者の 1 人として、私からも一言ご挨拶申し上げますが、もうお二方から丁寧なご挨拶がありました。遠路はるばる、きょうはお集まりを賜りまして、どうもありがとうございます。また本日、ご多忙にもかかわらず、来賓の皆様にはご出席を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、この大会は、治水事業に深くかかわる皆さんが一堂に会しまして、中部地方の治水事業に関する意見交換を行ない、命と財産を守る治水事業を計画的に推進し、事業の促進を図ることを目的としまして、開催を年に 1 度重ねているものでございます。

先月 6 日の台風 18 号による豪雨により、静岡県内各地にも大変な被害をもたらしました。私ども、行政、治水事業にかかわる者のたゆまぬ努力にもかかわらず、このように地域住民の命・財産を奪う深刻な災害が現在なお発生しているという現実を厳しく見据え、来年度の予算要望に一致団結をしていかなければなりません。

こうした中、本日、治水事業にかかわる皆様方が交流と情報交換を目的にお集まりするこの機会、まことに意義深いものであります。この大会を契機にして、中部地方それぞれの地域による治水事業が一層推進され、豊かな社会が実現することを念願いたしております。

結びに、本大会準備に当たりました県関係の皆様方の尽力に感謝を申し上げ、本日ご列席の皆様は今後ますますのご活躍をお祈り申し上げ、私からの挨拶にかえさせていただきます。本日はお集まり、ありがとうございました。

■ 来賓祝辞



中部地方整備局長
八鍬 隆

ただいまご紹介いただきました、中部地方整備局の八鍬でございます。

本日ここに、平成 26 年度中部地方治水大会が盛大に開催されますことを、まずもちまして、心からお喜び申し上げたいと思います。また、ご出席の皆様には、河川行政を初めとした国土交通行政に対しまして、一方ならぬご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

さて、ご案内のとおりでございますが、我が国は自然災害に対して脆弱な国土条件にある上に、近年の集中豪雨の激甚化、頻発化、台風の大型化などに伴い、今年の 8 月には広島で大規模な土砂災害が発生し、多くの尊い命が奪われるなど、全国で災害が多発している状況でございます。

私ども中部地方整備局管内におきましても、今年度は、7 月に長野の南木曾町の土石流災害、8 月は高山市などで発生した豪雨災害、9 月は御嶽山の噴火、そして 10 月は台風 18 号による静岡県での災害など、連続して災害が発生している状況であり、改めて災害に強い強靱な国土づくりを推進することの必要性を強く再認識したところであります。

その取り組みとしては、治水対策については河川改修、ダム、排水機場等の整備を計画的かつ迅速に実施していくことが、まずは極めて重要であるというふうに考えております。先般の台風 18 号の際にも、狩野川の放水路に放流することにより本川の水位を 2.5m 下げ、浸水被害を防止することができました。放水路整備の効果が実証された、いい例だというふうに考えてございます。まさに「備えあれば憂いなし」であり、今後とも適切な施設整備を着実に進めることにより、災害に強い強靱な国土づくりを目指していくことが必要不可欠であるというふうに考えている次第でございます。

一方で、全ての災害をハード整備だけで防ぐことは

不可能であり、私どもとしましても、洪水時の洪水予測や関係機関や住民の方々との情報共有を図り、住民の皆様が安全に避難ができるよう取り組んでいるところでございます。また、先月には、静岡県を初め 3 県が中心となり、関係各機関が一体となって、富士山の噴火を想定した防災訓練が実施されたところであり、新たな災害に対する防災・減災の取り組みが始まっております。

国土交通省におきましても、また後ほど説明があらうかと思っておりますけれども、広島市の土石流災害を踏まえて、土砂災害警戒区域における警戒避難体制を整備するため、土砂法の改正案を今国会に提出し、現在審議中でございますし、また、最近の災害の激甚化を踏まえまして、従来より厳しい新たなステージの災害に対する対応のあり方について、現在検討を行っているところでございます。

私ども中部地方整備局としましても、このような新たな動きも踏まえて、関係各機関とますます連携を密にして、ハード、ソフト両面にわたる総合的な防災・減災対策を一層推進してまいりたいと考えておりますので、皆様の引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日の大会におきましては、過去に災害をご経験された地域の皆様からの意見発表も用意されておられます。ぜひそうした貴重な体験を踏まえて、真に必要な対策について、この大会から発信していただき、治水対策のさらなる向上につなげていただきたいと思います。衷心からご期待を申し上げます。

結びになりますが、本大会の主催者であります静岡県川勝知事、全国治水期成同盟会連合会の陣内会長、静岡県河川協会会長の田辺静岡市長、また開催市であります鈴木浜松市長を初め、大会の開催にご尽力されました全ての関係の皆様へ心からの敬意と感謝を申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



静岡県議会
建設委員会委員長
仁科 喜世志

ただいまご紹介をいただきました、静岡県議会建設委員会委員長の仁科喜世志でございます。静岡県議会を代表しまして、一言お祝いを申し上げます。

改めまして、皆様、静岡県へようこそお越しください

いました。心から歓迎いたします。皆様方には、日ごろから、それぞれ現場の最前線で治水事業の推進に多大なるご尽力をいただいておりますことを、心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。

ご案内のとおり、中部地方は、3,000m クラスの山々、急峻な地盤、脆弱な地質などの地形条件から、これまで多くの自然災害を被ってまいりました。先月には2つの大型台風が日本列島を縦断し、本県でも広域的な浸水や斜面崩壊による交通機関の一時途絶など大きな被害を受け、治山・治水事業を推進する必要性を改めて認識したところで、県議会といたしましても、被災箇所の早期復旧や今後の防災対策の推進に鋭意努めていく所存でございます。

そのような中、治水事業に携わる皆様方がこうして一堂に会し議論を深められるのは、まことに意義深いものもあり、これを契機に、中部地方における治水事業がより一層推進されますことをご期待申し上げます。

本県には、昨年世界文化遺産登録を受けた富士山のほか、去る8月に世界ジオパークへの加盟推薦を受けた伊豆半島、また先ほどのご講演でご紹介いただきました浜名湖と、多くの豊かな自然を満喫できる観光名所が多数ございます。また、魚介類や農畜産物など、豊富な食材や名産品もございますので、この機会に、深まりゆく秋の静岡県をぜひとも堪能いただきたいと存じます。

結びに、全国治水期成同盟会連合会並びに静岡県河川協会のご発展と、皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの挨拶とかがえさせていただきます。

■ 事業概要

国土交通省 水管理国土保全局
治水課堤防構造分析官 梅田 和男

国土交通省中部地方整備局河川部長 勢田 昌功

内容は省略させていただきます。

■ 意見発表

静岡県伊豆の国市長 小野 登志子

「狩野川の治水事業と伊豆の国市における水害対策」についてハード対策、ソフト対策について説明し災害対策は行政の対策だけではなく、地域住民と一体となって総合的に取り組み、災害のない安全・安心なまちづくりを目指すと発表された。

静岡市川合旭町自治会長 浪越 良治

40年前の七夕豪雨の体験を元に、行政からのハザードマップ等を参考として地域、また自助で災害に対処していくよう、後世にも伝えていく。

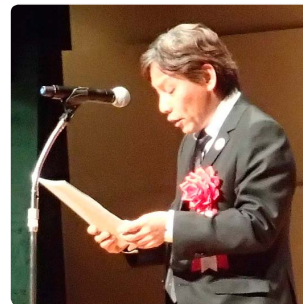
■ 大会決議



静岡県河川協会副会長
(浜松市長)
鈴木 康友

大会決議文は省略します。

■ 次期開催挨拶



三重県県土整備部
河川課長
岡田 規生

挨拶は省略させていただきます。

第 54 回 東北地方治水大会

と き：平成 26 年 11 月 6 日 (木)

ところ：ホテルメトロポリタン NEWWING

東北地方治水大会次第

(敬称略)

第 1 部 特別講演「啄木と水にまつわる話」	啄木ソムリエ	山本 玲子
第 2 部 東北地方治水大会		
開会	岩手県河川海岸協会評議員 (九戸村長)	五枚橋 久夫
主催者挨拶	岩手県副知事	千葉 茂樹
	全国治水期成同盟会連合会会長	陣内 孝雄
来賓祝辞	岩手県議会副議長	大宮 惇幸
	国土交通省東北地方整備局長	縄田 正
来賓紹介・祝電披露		
座長紹介	岩手県河川海岸協会会長 (一関市長)	勝部 修
治水事業概況説明		
	国土交通省水管理・国土保全局治水課長	塚原 浩一
	国土交通省東北地方整備局河川部長	鈴木 研司
意見発表	岩手県河川海岸協会副会長 (矢巾町長)	川村 光朗
大会決議	岩手県河川海岸協会評議員 (野田村長)	小田 祐士
次期開催県の決定及び挨拶	宮城県土木部河川課長	金子 潤
閉会	岩手県県土整備部河川港湾担当技監	及川 隆

第 1 部 特別講演

演題 「啄木と水にまつわる話」
講師 啄木ソムリエ 山本 玲子

講演内容は省略させていただきます。

第 2 部 治水大会

■ 主催者挨拶



岩手県副知事
千葉 茂樹

第 54 回東北地方治水大会を開催するに当たり、ごあいさつを申し上げます。

皆様方には、本県をはじめ東北地方の治水事業の推進につきまして、日頃から多大なる御理解と御協力を賜り、この場をお借りしまして深く感謝を申し上げ

ます。

また、未曾有の被害をもたらした東日本大震災津波から 3 年 7 か月余りが経過しましたが、被災地の復旧・復興を進める上で、国や各自治体、国民の皆様方から多くの御支援をいただいております、心から御礼申し上げます。

御承知のとおり、河川は古来より、地域特有の文化をはぐくむとともに、産業や物流など経済活動の大きな発展にも寄与し、人々に限りない恩恵をもたらして参りました。

一方で、我が国は、地形や気象の自然条件の厳しさなどから、災害を被りやすい環境にあります。

最近では、全国各地におきまして、かつて経験したことのないような豪雨等による大きな洪水被害が発生しており、本県も、昨年 7 月から 9 月にかけて、大雨による大きな災害が連続して発生いたしました。

具体的には、7 月には一関市を中心としておよそ 400 戸、また 8 月には一部自治体で統計開始以来最大となる降水量を記録し、矢巾町や雫石町などで、およそ 1,200 戸、さらに 9 月には台風 18 号により、盛岡市や二戸市などでおよそ 300 戸という家屋等の浸水被害が発生しましたほか、農地も大きな被害を

受けたところであります。

このように一連の大雨により、県内各地で大きな被害が発生したところでありますが、北上川本川や県管理の中小河川において洪水対策を講じてきたところについては、一定の効果があつたものと考えており、特に御所ダムや四十四田ダムでは、計画をはるかに超えた洪水量に対して、適切な洪水調整を行い、下流の河川堤防と併せて盛岡市街地を洪水被害から防ぐことができたことなど、これまでの整備が効果として明らかに現れているものと認識しています。

公共事業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にありますが、県といたしましても、災害から県土を保全し、県民の生命と財産を守り、安全で快適な県民生活を実現するため、今後とも治水対策に積極的に取り組んで参りたいと存じます。

結びに、本大会を通じて治水事業の一層の進展と被災地の一日も早い復興、東北地方の更なる発展が図られますよう御祈念いたしますとともに、御列席の皆様方のますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、あいさついたします。

平成 26 年 11 月 6 日

岩手県知事 達増 拓也

全国治水期成同盟会連合会会長 陣内 孝雄

挨拶は省略させていただきます。

■ 来賓祝辞



岩手県議会副議長
大宮 惇幸

議長の祝辞を御披露させていただきます。

第 54 回東北地方治水大会が開催されるに当たり、岩手県議会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

まずもって、東北各県から多数の関係者の皆様をここ岩手にお迎えし、本大会が盛大に開催されますことは大変喜ばしいことであり、御来県を心から歓迎申し上げます。

御参会の皆様方におかれましては、治水事業の推進に積極的に取り組まれ、地域住民の安全で快適な生活環境の実現に向けて、多大な御尽力をいただ

ているところであり、日頃の御努力に対しまして、深甚なる敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波から三年七か月がたちました。

発災以降、復興に向けて、国土交通省並びに東北地方の各自治体の皆様から、多大な御支援、御協力をいただいていることに対しまして、重ねて感謝申し上げます。

さて、昨今、東日本大震災津波を始め、大雨や暴風などにより、河川の氾濫や土砂崩れなど各地で深い傷跡が残されており、自然災害による被害を未然に防ぐことが大きな課題となっております。

このような中、治水事業は、水の被害から住民の尊い生命と貴重な財産を守り、地域の防災・減災対策に大きな役割を果たすものであり、現在の厳しい財政状況にあっても、豊かで安全な東北を築くために非常に重要なものであると存じます。

岩手県議会といたしましては、これまでも東北の各県議会や全国都道府県議会議長会と連携し、社会資本整備の財源確保に向けて種々取り組んでおりますが、治水事業の促進に向けて引き続き努力して参る所存であります。

御参会の皆様方におかれましても、本日の大会を契機として、なお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の御盛会と御参会の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍、そして東北地方の限りない発展を祈念いたしまして、祝辞いたします。

平成 26 年 11 月 6 日

岩手県議会議長 千葉 伝



国土交通省
東北地方整備局長
縄田 正

第 54 回東北地方治水大会が開催されるに当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

まず、御臨席の皆様方には、さきの大震災の復旧・復興をはじめ、私共国土交通行政推進に御支援・御協力を賜りまして誠にありがとうございます。

申し上げるまでもなく、我が国は自然災害に対して脆弱な国土条件、本年も全国各地で土砂災害、水害が発生しております。

例えて申しますと、8月20日の広島県での土砂災害、70名を超える方々が亡くなっておられます。

10月上旬には、台風18号、19号が2週連続で上陸いたしました。

東北地方では、7月上旬の梅雨前線によりまして、山形県南陽市で2年連続となる洪水、2,000戸を超える住宅の浸水被害が発生しております。

昨今、こういった気象は、もう異常というよりは新しいステージになったという風に認識しております。

新しいステージでの水害の頻発化・激甚化、これに対応するためには、引き続きハードの整備はもちろん、ソフト両面の施策を組み合わせた防災・減災対策が一層推進していくことが必要でございます。

特に人命を守るためには事前の準備が大切ということで、私共整備局では、本年から防災行動計画いわゆるタイムラインの策定を行いまして実際の取組みを始めております。

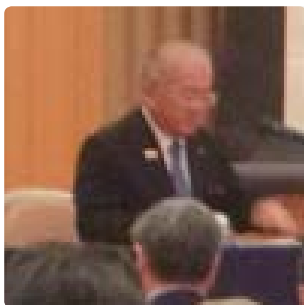
台風18号、19号においてはタイムラインに基づきまして多くの地域で避難準備情報や避難勧告等が発令されたところでございます。

今後とも、住民が安全、安心で暮らしていくための整備や、人命を守るための対応について私共とともに自治体の皆様と連携をしっかりとっていくことが重要であるという風に考えております。引き続き、関係各位の皆様方の御支援、御協力をお願いしたいと思います。

結びに、本大会の成功と御臨席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして私の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございます。

■ 座長紹介



岩手県河川海岸協会会長
一関市長
勝部 修

■ 治水事業概要

国土交通省水管理・国土保全局河川計画課長
塚原 浩一

説明内容は省略させていただきます。

国土交通省東北地方整備局河川部長
鈴木 研司

説明内容は省略させていただきます。

■ 意見発表



岩手県河川海岸協会副会長
矢巾町長
川村 光朗

25年8月の大雨による災害を契機に、情報の伝達・避難体制等について整備を進めるとともに関係機関の連携により「災害に強いまちづくり」を目指していく旨の意見発表。

■ 大会決議



岩手県河川海岸協会評議員
野田村長
小田 祐士

大会決議文は省略させていただきます。

■ 次期開催県の決定及び挨拶

宮城県土木部河川課長 金子 潤

挨拶は省略させていただきます。